名

一年　画数 6
筆順 ノ ク タ 名
オン メイ・ミョウ
クン な

成り立ち

〝夕がた〟のいみの〝夕〟と、〝口〟という字とをくみあわせてつくった字です。夕がたになってくらくなりますと、ひとのかおがはっきりしません。むかしは、夕がたにしらないひとにあうのがふあんでしたから、ひととあったときには、おたがいにじぶんの〝なまえ〟をなのりあうしゅうかんがありました。それで、〝夕〟という字と〝口〟という字とで〝なまえ〟といういみをあらわしたのです。

また、「名まえがしれている（有名）」といういみにもつかわれるようになりました。

それは〝すぐれている〟からだということで、〝すぐれた〟といういみにもつかわれます。

便い方

▽名まえをしっているもののほうが、しらないものよりもしたしみがあります。

▽有名な夏目漱石の本名は夏目金之助です。

熟語例

▽名高い（その名がおおくのひとにしれていること。〝高名〟ともいいます。また、〝有名〟ともおなじいみ）

▽無名（有名のはんたいで、名まえがせけんにしれていないこと。）

▽名士（有名なひと。また、さいのうやひとがらがすぐれたひと）

▽名所（有名な所。けしきのすぐれた所やれきしで有名な所のことです。〝名勝〟ともいいます。）

▽名物（有名な物。とくに〝たべ物〟のばあいがおおい。とくちょうがあってそれがひょうばんのもの）

▽名言（有名な言葉。とくに「すぐれた、いみのふかい言葉」のこと。）

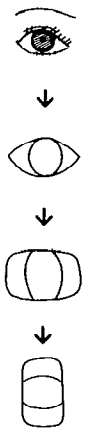
参考

▽仮名（名は〝字〟のいみ。漢字の〝真名〟にたいして、「仮の字」といういみのことばです。）

目

一年　画数 5
筆順 一 冂 日 目
オン モク・ボク
クン め・ま

成り立ち



〝目〟のかたちをあらわした字で、〝め〟といういみをあらわしたものです。

〝目〟はものをみるきかんですから、〝みる〟といういみ、また、「ものをみとおす」といういみにもつかわれます。たとえば、「目がきく」といういいかたがこれです。

また、「あみの目」「ごばんの目」「すじ目」「もく目」「き目」などのつかいかたもあります。

〝目〟はひとにとってもっともたいせつなものですから、「ものごとのいちばんたいせつなところ」のいみにつかうことがあります。

また、〝目ざす〟〝目あて〟など、〝こころ〟のいみにもつかわれます。

便い方

▽ぼうしを目深にかぶったひとがおおい。

▽ひとの注目のまとになってうれしい。

▽まったく面目ないことをしました。

熟語例

▽目深（目がかくれるくらいに〝ふかく〟といういみ。ぼうしをふかくかぶることをあらわしたことば）

▽目緑（目のふち）

▽注目（目を注ぐこと。ひとびとのちゅういがあつまること。）

▽面目（面はかおのこと。目はかおのなかでいちばんたいせつなところ。〝かお〟といういみのことば。「面目ない」は「ひとにあわせる〝かお〟がない」といういみにつかいます。「せけんにたいするめいよ」といういみ。〝メンモク〟ともいいます。）

▽眼目（眼も〝め〟。ものごとのいちばんたいせつなところ、といういみにつかうことば）

▽目的（的はゆみの〝まと〟。ゆみをいるときのまとのように、なにかするとき〝こころ〟をむける〝目あて〟とするもの）